

カテゴリー

脳卒中 装具系 歩行

タイトル

脳卒中後の体重免荷トレッドミル歩行と積極的装具介助歩行の比較

Comparison of Partial Body Weight-Supported Treadmill Gait Training Versus Aggressive Bracing Assisted Walking Post Stroke

Kosak MC : Neurorehabil Neural Repair.2000

内 容

PURPOSE

体重免荷トレッドミル歩行(以下、PBWSTT) が積極的装具アシスト歩行 (以下、ABAW) プログラムより均等な支持で効果的な歩行練習を与えるだろうという仮説を検証するため

METHODS

- ・インフォームドコンセントに従って、著名な下肢脱力で少なくとも歩行中にはある程度の介助が必要であり、起立性低血圧、呼吸困難の兆候、狭心症がないリハビリテーションプログラムを受ける入院患者が対象となり、無作為に PBWSTT を受ける群と ABAW を受ける群に分けられた。
- ・PBWSTT は市販販売されている頭上から自動で持ち上げるパラシュート型体用ハーネスが取り付けられており、それがトレッドミル上で患者の体重の部分的に免荷に寄与する。
- ・セラピストは必要に応じて、体重移動や下肢の振り出し、足部の接地場所をアシストした。ABAW は膝-足の装具の組み合わせや、もし必要であれば片手手すりを使用するという積極的な早期のセラピストのアシスト歩行を含んだ。
- ・1週間のうち1日45分を5日間の治療セッションが入院患者の入院継続が許可された、もしくは介助なしで歩行ができた患者までに与えられた。それに加えて全患者は担当セラピストによる適切な判断で装具の有無にかかわらず、1日45分間の機能指重視の理学療法を実施した



(出典 : <http://www.rehabpub.com/2009/04/counterpoise/>)

RESULTS

56 患者は年齢平均は 71 ± 1 歳、標準偏差は脳卒中後 40 ± 3 日。全体として 2 群の結果に有意差はなかったが、12 を超える治療セッションを受けた片麻痺、半盲障害、片側感覚鈍麻の有無で定義された脳卒中の重度片麻痺患者では、PBWSTT vs. ABAW で耐久性 ($90 \pm 34\text{m}$ vs $44 \pm 10\text{m}$) と速度 ($12 \pm 4\text{m}/\text{min}$ vs $8 \pm 2 \text{m}/\text{min}$) それぞれで有意な改善がみられた

CONCLUSIONS

ABAW のみを使用して動かすことが困難である一部の重度片麻痺患者を除けば、PBWSTT と ABAW は同様に効果的な歩行トレーニング手法であった

明日への臨床アイデア・感想

PBWSTT と ABAW では歩行の実用性から大きな違いがあると思いますが、現状 PBWSTT がない現場も多いと思います。それぞれの方法のメリット・デメリットを明らかにすることで機器がない現場にも還元したいものです。ABAW と比較して PBWSTT は高い歩行の安定性・安全性から、歩行時の疲労が減少することや疲労や不安感に伴う筋緊張の亢進も防ぐことができるのではないかと考えられます。そう考えるとセラピストの経験年数でも ABAW では差がみられそうです。教育の充実も機器がない現場ではより一層必要になることでしょう

氏名 諸橋 直紀

職種 理学療法士
